

本校の熱中症予防のための対応について

盛夏の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また日頃から、本校教育活動に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、近年、全国的に児童生徒の熱中症に係る救急搬送が増加しており、旭川市でも、今後暑い日が予想されることから、対策が必要な状況になっております。

つきましては、「旭川市立小中学校熱中症対策ガイドライン」に基づき、気象庁の天気情報や環境省の「熱中症予防情報サイト」の暑さ指数(WBGT)を踏まえ、次のとおり対応してまいります。御理解と御協力をいただきますようお願いいたします。

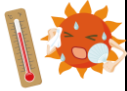
記

1 熱中症警戒アラート（暑さ指数3.3以上）が発表された場合

○臨時休業（時間の変更を含む）を検討し、マチコミメール等で保護者に周知します。

2 暑さ指数が高い場合

○熱中症を予防するため、暑さ指数を基に下の表の通り活動の判断をします。また、暑さ指数が低い場合でも、気温や児童の体調を考慮し、対応を判断します。

暑さ指数 (WBGT)	湿球 温度 (注1)	乾球 温度 (注1)	注意すべき 生活活動の 目安(注2)	日常生活に おける注意事項 (注2)	熱中症予防運動指針(注1)	本校の対応
3.3 以上	27℃ 以上	35℃ 以上	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。	危険（運動は原則中止） 特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。	屋内外で身体を動かす活動の中止。
2.8 以上	24℃ 以上	31℃ 以上		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。	厳重警戒（激しい運動は中止） 熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩を取り水分・塩分の補給を行う。 <u>暑さに弱い人※</u> は運動を軽減または中止。	体温が上昇する運動を中止するなど、活動を制限。
2.5 以上	21℃ 以上	28℃ 以上	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休憩を取り入れる。	警戒（積極的に休憩） 熱中症の危険性が増すので、積極的に休憩を取り適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩を取る。	状況把握に努め適宜必要な指示。
2.1 以上	18℃ 以上	24℃ 以上	強い生活活動でおこる危険性	一般には危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	注意（積極的に水分補給） 熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。	
2.1 未満	18℃ 未満	24℃ 未満		<u>※暑さに弱い人</u> ：体力の低い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など	ほぼ安全（適宜水分補給） 通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。	

※暑さ指数については、「熱中症予防情報サイト」の数値の他、本校でも暑さ指数計を用いて測定しています。